

高齢化・福祉化社会の新しい生涯スポーツ：

バーンゴルフ（BAHN GOLF）

—— 日本バーンゴルフ協会の設立と今後の方向性 ——

○西田俊夫（淑徳短期大学）、荒井ルリ子（日本バーンゴルフ協会）

バーンゴルフ レジャースポーツ 生涯スポーツ 障害者スポーツ スポーツ教育

I. はじめに

現代社会は、科学技術の進展により急激な変貌をした。それは都市への人口集中、交通・通信手段の発達、所得水準の向上、自由時間の増大などである。しかも、国民の生活意識の変化に伴って、ハイ・クオリティ・ライフへの向上要求が高まり、レジャースポーツやレクリエーションの普及もめざましいものがある。

特に、これからのスポーツやフィジカルレクリエーションを考えた場合、スポーツを楽しむ層の拡がりや国民のスポーツに対する欲求も、他の生活の諸側面とともに多様化してきている。さらに、スポーツ活動の形態も国際交流が盛んになるにつれて、ニュースポーツが出現し、新しいものを求める人々の欲求にあわせて、ニュースポーツの開発も次々とされている。このように、スポーツやフィジカルレクリエーションの選択肢も拡がりをみせており、個々の体力や技術に応じたスポーツの楽しみを見つけ出し、生涯を通じてスポーツに親しみ・楽しむライフスタイルの定着を国民はめざしつつある。

上記のような社会的背景の変化やそれに伴う新しいスポーツ活動・フィジカルレクリエーションへの要望を踏まえて、ここで取りあげたものが「バーンゴルフ（BAHN GOLF）」である。イギリス生まれでヨーロッパ育ちのバーンゴルフは、生涯スポーツとして、学校教育の一環として取り入れながら、高齢化・福祉化社会に対応した誰もが楽しめるニュースポーツである。

そこで今回は、バーンゴルフの歴史とヨーロッパの実状を把握しながら、日本バーンゴルフ協会の設立目的・意義を示し、これからのバーンゴルフ発展と普及のための出発点として述べることにする。

II. バーンゴルフの歴史概要

バーンゴルフの語意は、ドイツ語のBAHN＝道路・コースでその呼び名を日本に導入したものである。1920年頃にゴルフの発祥地イギリスでミニゴルフとして生まれ、パター練習の目的でプレーをしていた。同年スウェーデンに入り、バーンゴルフとしてヨーロッパで広められたが、コースやルールの規定もなく、その場で適宜にルールを決めゲームを楽しんでいた。

1930年代には、いくつかのクラブが結成され、1937年にヨーロッパ最初のバーンゴルフ協会がスウェーデンで設立された。

1941年に、第1回のスウェーデン選手権が開催されたが、この当時はパター、クラブとボール各1コ使用され、しかも特定のコース設定もなくゲームをしていた。

そこで、同じ条件で統一したコースを設定した人がH. シュールンド氏（シティゴルフ社）であった。H. シュールンド氏は、熱狂的なバーンゴルフのプレイヤーでもあり、その経験を生かし、スウェーデンバーンゴルフ協会と協同開発されたのが現在スウェーデン

式コースと呼ばれている、フィルターコースである。フィルターコースは松の木製のフレームで、面にレンガパウダーを敷き、途中に、障害物を設けたりして工夫し、プレーヤーが同じ条件下で楽しめるコースを完成させたのである。

1959年には、スウェーデンでバーンゴルフは教育的なスポーツとして学校教育（体育）の一環となった。さらに、スウェーデン国立体育協会への加盟も認められ、確固たる位置づけを得たのである。

1963年に国際バーンゴルフ協会が設立され、ヨーロッパを中心にクラブ対抗試合や国際試合が盛んに行なわれるようになった。

他のヨーロッパ諸国でも、バーンゴルフは、手軽なレジャースポーツやファミリースポーツとして老若男女が楽しんでプレーに熱中していた。特に、ドイツ（当時西ドイツ）では、いろいろな種類のコースが出現し、その中でも鉄製やコンクリート製のフレームで表面がエタニート材を張った（俗にヨーロッパコースと呼ばれている）コースが普及して、ドイツ全土で約2500ヶ所も設置されている。ヨーロッパ諸国の長い夏に、バーンゴルフは手軽なバカンススポーツとして親しまれたり、週末や自由時間に楽しむスポーツ活動として注目されている。

1995年現在、国際バーンゴルフ協会の加盟国は、ヨーロッパ諸国を中心に世界で20ヶ国であるが、日本を含む14ヶ国が加盟を希望している。

バーンゴルフの施設は、スウェーデンで約800ヶ所、ドイツでは約2,500ヶ所のコースがある。スウェーデンのバーンゴルフクラブは、全国で約200、約1万人のプレーヤーが毎年選手権大会に出場している。さらに、愛好者レベルの競技人口は、1シーズンに延べ約1千万人ともいわれているほどのポピュラーなスポーツである。

最近の加盟国で注目すべきことは、アメリカと中国の動向である。アメリカは、国内でパットパットゴルフが定着している。しかし、国際的な組織を持たないために、これからはバーンゴルフ（ミニゴルフ）に力を注ぐことになる。中国は、スウェーデンのメーカーが7～8セット（18ホール）を輸出し、スウェーデン大使館や中国官庁の承認を得て、新しいスポーツのバーンゴルフを取り入れたのである。

Ⅲ. 日本の場合

1) 設立の意義

- ①バーンゴルフは、生涯スポーツとしての正常な発展を目指す。
- ②バーンゴルフは、地域社会の活性化に努める。
- ③バーンゴルフは、学校教育の一環として取り入れ、育成する。
- ④国際バーンゴルフ協会に加盟し、国際社会への参加・交流・友好親善を図る。

2) 設立の目的

- ①全国レベルでの正常な発展をめざし、教育・普及活動を行う。
- ②全国統一ルールを確立し、スポーツとしての普及に努める。
- ③コースの技術的特性を生かした規格を設定し、施設の全国展開に努める。
- ④各競技会の開催と国際大会の参加に努める。
- ⑤施設及び用具の研究開発をする。

Ⅳ. 今後の方向性

日本におけるバーンゴルフは、スポーツとして学校教育の一環に取り入れるだけでなく、高齢化社会に対応できる新しいレジャースポーツや身体的レクリエーションとして位置づけし、さらに性別・年齢・世代を超え、障害者もともに積極的に地域社会に溶け込み、相互間の連帯が図れる明るく健全な生活環境づくりの構築を目指している。